

やすらぎ

第26号

平成26年8月1日発行

岐阜市民病院 代表電話 058-251-1101 ホームページ <http://gmhosp.jp/>



理念 心にひびく医療の実践

- ### 基本方針
- 患者さんの権利を尊重し、心温まる医療を行います。
 - 安全で信頼されるチーム医療を行います。
 - 地域の医療機関と連携し、患者さん中心の継続した医療を行います。
 - 地域の中核病院として、最新かつ高度な医療を提供できるよう努めます。
 - 職員が生き生きと働くことができる環境づくりに努めます。



平成26年度総務大臣表彰を受賞しました！

ご挨拶

病院長 富田 栄一

市民病院は『心にひびく医療の実践』を基本理念に、地域の中核病院として、患者さんの権利を尊重した心温まる医療の提供に努めています。

本年一月には、「患者中心の医療の提供」、「良質な医療の実践」等への取り組みが認められ、中立な第三者機関である「公益財団法人日本医療機能評価機構」が実施する「病院機能評価」の認定が更新されました。当院は、平成十四年から継続して認定を受けており、平成二十五年四月から始まった新しい評価基準での更新は、五百床以上の病院としては県内で初の認定となりました。

また、四月からは地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たすため、新しく導入した高精度放射線治療装置による治療を開始しております。さらに八月からは、この装置による強度変調放射線治療（IMRT）が始まります。今まで以上に、より精密にがん腫瘍だけに集中して放射線をあてる治療が行えるため、治療効果上がり、副作用が軽減されます。身体への負担が少なく、より質の高いがん治療が期待できます。

同じく四月から岐阜大学医学部附属病院より石塚達夫先生をお迎えして「総合診療・リウマチ膠原病センター」を開設し、原因不明の発熱や関節の痛み等の診断治療を専門に行っております。

西診療棟や玄関棟、立体駐車場など、昨年十二月にひとまず完了した市民病院改築整備事業ですが、高度医療や災害医療を行っていくために、引き続き病院施設の充実を進めてまいります。まず今年度はHCU（ハイケアユニット・高度医療室）の整備計画を行います。HCUは、ICU（集中治療室）での治療を終えた方や全身麻酔での手術後の方など、通常の病棟では管理が難しい重症な方が入室されるお部屋です。高度な医療機器や看護師を多く配置することで、患者さんの急な容態の変化にも迅速な対応が可能となります。

このように最新かつ高度な医療を提供し、地域の皆さんに選ばれる病院になるためには、一方で健全な経営を継続して行くことも重要となります。当院は、自治体病院として地域医療への貢献と平成十九年から二十四年までの六年間の経営の黒字が認められ、昨年の「自治体立優良病院表彰」に続き、この六月に「総務大臣表彰」を受賞しました。この受賞を励みに、今後も皆さんのご期待にこたえられるよう、さらなる努力を重ねてまいります。

総合診療・リウマチ膠原病センターが開院されました

総合診療・リウマチ膠原病センター長 石塚 達夫

今年四月より総合診療・リウマチ膠原病センターを開院致しましたので、宜しく申し上げます。三月までは岐阜大学医学部附属病院総合内科で診療にあたっており、院内、院外の診断困難な症例や治療のご相談をまいりました。

センターは医長である藤岡圭医師と、田口皓一郎医師、村上大輔医師で構成されております。

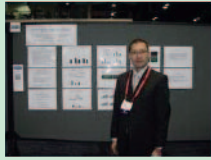
原因不明の発熱、関節痛、筋肉痛で悩んでみえる方、岐阜市民病院総合診療・リウマチ膠原病センターを利用して下さい。皆様のご期待に添える様に診断、治療致します。



藤岡 医師



石塚センター長



田口 医師



村上 医師

紹介される患者さんの中で、多いのは不明熱（三十八度以上の発熱が続く原因不明のもの）です。不明熱は細菌やウイルスが体内に侵入することにより起こる感染症、そして関節リウマチに代表されるリウマチ膠原病疾患、体のどこかに腫瘍ができており腫瘍から発熱物質が産生される腫瘍熱、治療の為に投与されているお薬が副作用として熱を出す薬剤熱が四大不明熱疾患とされています。岐阜大学病院ではこれら診断不明の患者さんの診断治療を担当してきました。また、関節痛、筋肉痛、発熱をともなうリウマチ膠原病も診断、治療に難渋される事が多いかと存じます。以前は、関節リウマチは治らないで関節破壊が進行する病気でしたが、最近、関節破壊を押さえる薬が開発されて来ています。決してあきらめないで、正しい指針に基づいた治療法を施行致します。難病とされる膠原病もその診断、治療の進歩はめざましいものがあります。

現在、市民病院でのリウマチ、糖尿病、内分泌の各学会の専門認定施設の取得に加えて、平成二十九年卒業の医師より適用される総合診療専門医研修

など地域の医療を支える医師養成にも貢献するよう努力致します。糖尿病、高血圧、脂質異常症をはじめとする生活習慣病のみならず、患者さんの訴えに基づき、的確な検査後に診断ができる医師の養成が今日ほど必要な事はありません。

いくら医学が専門化、細分化されても臨床診断が的確にできなければ国民の医療の質の向上はあり得ません。センターでは今後、このような問題点に立ち向かえる医師の養成をめざしていきます。



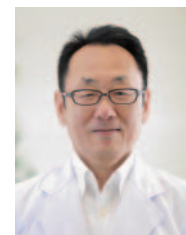
「総合診療・リウマチ膠原病センター」外来のご案内

内科	月	火	水	木	金
5診	藤岡(再診)	-	-	-	田口(再診) (午前)
7診	-	村上(再診)	-	-	-
8診	-	-	藤岡(初診：午前) 池田(専門：午後)	-	-
9診(午前)	田口(初診)	石塚(初診)	石塚(再診)	診察医 交替制	村上(初診)

病理診断科の紹介

病理診断科 部長 田中 卓一

手術や検査で摘出・採取された組織や細胞を顕微鏡で観察し、病理組織診断や細胞診断を行う部門が病理診断科です。患者さんに対して臨床医が行う『臨床診断』は良くご存知と思いますが、最終診断の『病理診断』は病理医が行います。病理検査により疾患の診断が確定され、臨床医が治療方針を決定、治療を開始します。

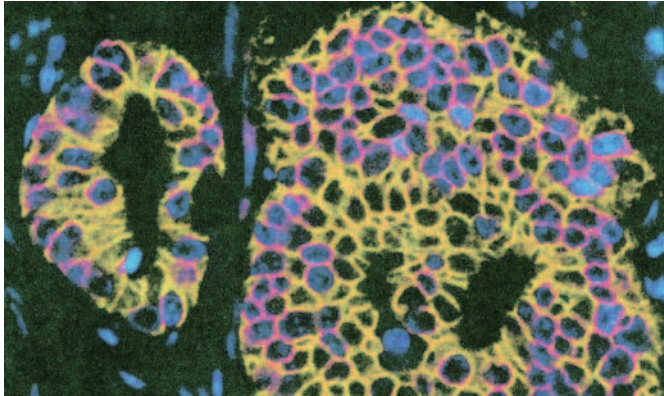


田中 部長

当科では年間約六千件の組織診、約七千件の細胞診、約百五十件の術中迅速診断、約十例の病理解剖を常勤病理専門医一名と岐阜大学からの非常勤病理専門医五名が担当し、すべての診断を病理専門医が確認を行っています。また、地域がん診療連携拠点病院として高度ながん治療に貢献するために、各種抗体を駆使した分子病理診断(写真1)などを実施しています。さらには病理診断に関するセカンドオピニオンにも対応しております。

当科の臨床検査技師は五名で、そのうち三名が細胞診を専門とし、国際資格を持った細胞検査士(CT)です。

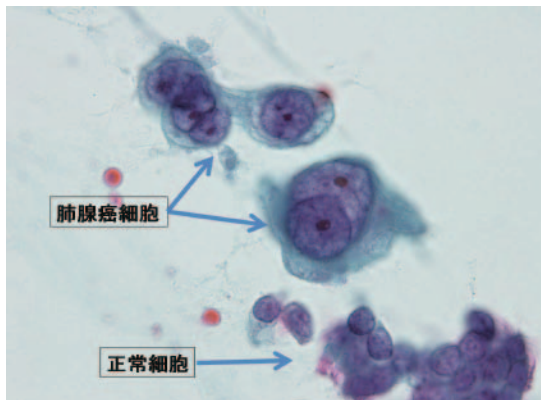
摘出された組織を約三ミクロンの厚さに薄切後、病理診断を行うための組織標本を作製します。細胞検査材料に特殊な染色を施した標本上でがん細胞(写真2)や前がん細胞、ウイルス感染細胞などを見出すことを専門業務とするこの分野の「職人」と言えます。見つけ出した異常細胞の最終判断は細胞診断専門医資格を持つ常勤医師が行います。



分子病理診断 (写真1)

このように、当科では病理医と臨床検査技師のチームワークで全ての組織診、細胞診共に正確な診断を速やかに行うよう努力しております。加えて、定期的な臨床病理検討会を実施し、当

院における臨床研修医の初期臨床研修や医療の質の向上にも貢献しています。ヒトの病気は多様であり、未知・未解決の点が含まれているため病理診断は決して易しいものではありません。私たちも学会活動や臨床病理検討会を通じて自己研鑽に励んでいます。



がん細胞 (写真2)

病理学 (pathology) は以上のような臨床医学的な側面と同時に、病気になる原因を探る研究などの基礎医学的な側面も持っています。当科では『炎症とがん』、『がん予防』などに関する研究を国内外の基礎研究者と実施しており、臨床現場への還元をめざしています。



リハビリテーション科の紹介

リハビリテーション科



当院のリハビリテーション科では、整形外科や脳神経外科の患者さんはもちろん、その他の科の患者さんであっても、リハビリを行っています。様々な疾患に対応するため、心疾患・呼吸器疾患・消化器疾患などの方、手術を受ける方、人工呼吸器を付けた方、がんの治療中および終末期の方など、疾患の種類ごとにグループ分けを行い、リハビリを行っています。

たとえば、病気で身体の具合が悪くなって入院していると、自ら進んで運動する気力は失せ、食欲も低下し、体力が落ちやすくなります。そのため当院では入院後なるべく早くからリハビリを始め、その方の病状に合わせて、身体を起こして腰かける、車椅子に乗る、歩くなどの練習を行います。加えて食事に関しては、口の中の環境を整え、食べるための機能を改善し、食事を摂るための訓練を行っています。

また、家事や仕事への復帰など、退院後の社会での役割によって、一人ひとりのリハビリの目標が異なってきました。そこで、リハビリを始める際には

医療スタッフや患者さんとその家族などの間で、リハビリ内容についての話し合いを行い、退院後問題なく日常生活が送れることをめざしています。今後もしリハビリを通して患者さんの身体的な問題だけでなく、悩みや不安など精神的なサポートも行いながら心にひびく医療をめざして参ります。

気軽に声をかけてくださいね!!



心臓血管ドックのご案内

健康管理センター長 橋本 和明

当院健康管理センターで行われている心臓血管ドックについて紹介いたします。

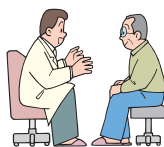
心臓血管ドックに含まれる検査には、動脈硬化検査（ABI）・心臓超音波検査（心エコー）・頸動脈超音波検査（頸動脈エコー）・冠動脈造影CT検査があります。

①ABI

血液が流れる速度は血管が硬いほど速く、この速度を調べることで血管の硬さ、すなわち動脈硬化の程度がわかります。上腕と足首の血圧の差を調べることによって血管の詰まり具合がわかります。

②心エコー

超音波探触子を胸や肋骨の間に当て、心臓の形や動きを調べることが出来ます。

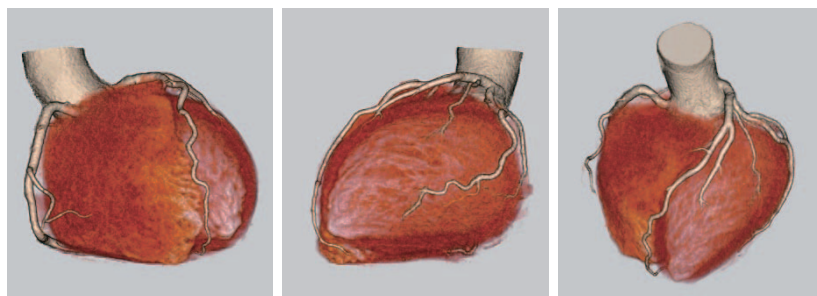


③頸動脈エコー

頸動脈は首の血管で直径十ミリ前後あり、全身の動脈と同じ位の太さで他の臓器の動脈と相関すると考えられ、動脈硬化の指標とされています。

④冠動脈造影CT検査

造影剤を注射し心臓に血液を供給する血管（冠動脈）を写す検査です。これにより冠動脈の異常（狭心症や心筋梗塞など）の有無を調べることが出来ます。撮影時間は約三十分で体にそれほど負担はありませんが、造影剤を使用するため、腎臓疾患のある方や、わずかながら放射線被爆を伴ったため、妊娠中やその可能性がある方は受診できません。



冠動脈CT検査結果の一部

心臓疾患のハイリスク群、すなわち高血圧症、糖尿病、脂質異常症など生活習慣病をお持ちの方、喫煙される方、運動時に胸が痛むなどの自覚症状のある方、血縁者に心臓疾患がある方は、早めに受診されるほうがいいでしょう。

心臓は私たち人間にはなくてはならない臓器です。片時も休まず私たちのために働き続けてくれている心臓のためにも、心臓血管ドックの受診を検討してみてください。料金は、53,560円（税込）になります。詳しくは予約時に健康管理センター受付にお尋ねください。（平日、月～金、午後三時まで）



敷地内禁煙

地域がん診療連携拠点病院の指定を受けている当院では、駐車場を含め敷地内禁煙となっております。皆様のご理解とご協力をお願い致します。

編集後記

読者のみなさん「やすらぎ」第26号が完成しました。本号では、総合診療・膠原病リウマチセンターの紹介、病理診断科の紹介、リハビリテーションの紹介、心臓血管ドックのご案内を掲載いたしました。

その他に、現在、岐阜商工会議所の「月報」に当院の医師が健康情報を毎月提供しております。機会がありましたら、一度ご覧ください。

編集部一同



外来診療のご案内

●診療科目・・・内科、糖尿病・内分泌内科、精神科、神経内科、呼吸器・腫瘍内科、消化器内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、歯科、歯科口腔外科

●休診日
土・日・休日と12月29日～1月3日

*詳細はホームページでも紹介しています。

